

# 年間授業計画

科目名 (単位数)	音楽 I (2)	教科書: MOUSA1
対象学年	1	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	4	副教材3:
科目の目標	正しい発声や演奏技術を身につける。 音楽を様々な角度から聴くことのできる力を身につける。 読譜力を身につける。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	ガイダンス リズムについて	授業を学校全体の学習の中でどのようにとらえるか 音楽の三要素としてのリズムを理解する。
	リズムの基礎 読譜の基礎	リズムの基礎、リズム感とはどのように表現するか リズムを読むために基本的な楽譜の読み方を復習する。
1学期期末  ( 26 )	リズム・ソルフェージュ ボディ・パーカッション ボディ・パーカッション ボディ・パーカッション ボディ・パーカッション #REF! ボディ・パーカッション ボディ・パーカッション リズムによる創作	基本的なリズムを叩けるようにする Plymouth Rock 譜読み Plymouth Rock 譜読み(2) ボディ・パーカッションによる様々な作品を鑑賞 ボディ・パーカッションの様々な表現を探る Plymouth Rock への応用・アレンジを考える Plymouth Rock 合わせ練習 Plymouth Rock グループテスト 自らリズムを創作し、表現する
	2学期中間	ギターの各部名称・持ち方 音階練習・簡単なメロディーの演奏 使える弦を増やして演奏する 使えるフレットを増やして演奏する 2人で呼吸を合わせて演奏する練習 ギター演奏実技試験
2学期期末  ( 28 )	ギターアンサンブル試験 発声の基本① 校歌① 歌唱の基礎トレーニング 校歌② 歌唱の基礎トレーニング 校歌③ 歌唱の基礎トレーニング 校歌実技試験	パート決定、演奏方針の決定 アンサンブル練習 ギター演奏実技試験 身体の準備・使い方・ハミング 校歌の鑑賞・音取り(ハミング) 校歌の音取り(ハミング・母音唱) 校歌の暗譜・音楽的な歌い方の根拠を考える 暗譜・1人で歌う(非公開)
	鑑賞 鑑賞	オペラ座の怪人 ストーリーと音楽構成の考察 オペラ座の怪人 メロディーと内容の考察
3学期  ( 16 )	合唱の基本 簡単な合唱曲	ハーモニーの作り方・考え方 複数の人間で音楽を作るときに必要な考え方
	二部合唱実技試験  ミュージックベル・読譜練習 ミュージックベル	相互に距離を保った状態で相手の音を聴く  ミュージックベル演奏およびスコア譜の読譜 パート練習・合奏・アンサンブル実技試験
評価の 観点と 方法	正しい発声で音程・リズムで音楽的に歌うことができる。実技試験実施。 ギターを中心に基礎的な演奏技法を身につけて演奏することができる。実技試験実施。 読譜能力を養う。	
以上の観点から総合的に評価を行う		



# 年間授業計画

科目名 (単位数)	音楽Ⅲ(2)	教科書: Joy of Music
対象学年	3	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	外国曲(イタリア語・英語等)・日本歌曲について意味を理解しながら表現できるようにする ギターまたはピアノで任意の1曲を演奏できるようにする。 ギターまたはピアノで弾き歌いができるようにする。 音楽作品と社会とのかかわりを多角的に理解できるようにする。 これまで学んできた経験をもとに「編曲」ができるようにする。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	読譜の基礎 ギターによるコードネーム復習	これまでの読譜上の基礎復習 「夢の中へ」コードネームによる弾き歌い
	編曲について 編曲について	ギターまたはキーボードによるアレンジ例 「夢の中へ」アレンジ
1学期期末  ( 26 )	編曲について キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム	「夢の中へ」アレンジ 昨年度の復習 全音・半音・メジャー・マイナーコードの性格 長3度・短3度・セブンスコード・オンコード ディミニッシュ/オーギュメントコード
	キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム	You Raise me upの伴奏をコードネームで考える You Raise me upの伴奏をコードネームで考える
2学期中間	独唱	You Raise me up
	独唱 重唱 重唱 キーボードと歌のアンサンブル キーボードでアレンジする 打楽器によるリズム伴奏の基礎	You Raise me up You Raise me up You Raise me up You Raise me up You Raise me up よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ
2学期期末  ( 28 )	打楽器によるリズム伴奏の基礎 打楽器によるリズム伴奏の基礎 メロディを前提としたリズム伴奏 メロディを前提としたリズム伴奏 アンサンブル	よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ 具体的な曲を例にリズム伴奏をつけてみる リズム伴奏にコードネーム伴奏をつける リズム・コードネーム・メロディを合わせてアレンジ
	コード4種循環による創作 コード5種循環による創作	メロディの創作 メロディの創作および伴奏づけ・経過音の導入
3学期  ( 16 )	音楽史および音楽鑑賞	バルトの楽園(第九の日本輸入)
評価の 観点と 方法	内容的に高度な独唱曲を自分なりの表現で歌える。 ギターまたはピアノで、根拠を持った音楽表現ができる。 ギターまたはピアノに歌を加えて表現することができる。 編曲し、それを楽譜に起こすことができる。 音楽史・音楽の構成要素等の知識から考察を加えたレポートを提出できる。 以上の観点から総合的に評価を行う	

# 年間授業計画

科目名 (単位数)	幼児教育音楽(2)	教科書:
対象学年	3	副教材1:みんなピアノだい好き!
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	ピアノの基礎的な奏法を身に着ける。 コード伴奏理論を理解する。 ピアノで弾き歌いを行う。 基本的なリズム・伴奏をつけたり、身体表現ができるようにする。 他人と合奏・合唱・合同表現ができるようにする。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	読譜の基礎 ピアノの基礎 ピアノの基礎 ピアノと歌 ピアノと歌 1音コードネーム ソルフェージュの基本	楽譜の基本的な読み方 基本的な手・身体の使い方 手の使い方・指使いの考え方 歌唱しながら同じ旋律をピアノで弾く 両手で同じ旋律を弾く コードネームの原理の理解、歌いながら1音伴奏 左手で各種一定のリズムをたたきながら歌う
1学期期末  ( 26 )	指くぐりの考え方と実践 両手による指くぐり 唱歌にふりをつける 唱歌にふりをつける  実技テスト  言葉のイメージから音をつくる	鍵盤で指をくぐらせなければならない場合の基礎 左右両手で指をくぐらせる練習 子どもにとって教育的効果のあるふりのつけ方 メロディと1音伴奏および身振りの総合  唱歌のメロディと1音伴奏、ふりつけ  普通名詞を用いたことばによる形象・音による表象
2学期中間	#REF! キーボードコードネーム キーボードコードネーム キーボードコードネーム 言葉のイメージから音をつくる ギターの基礎 ギターの基礎	2音以上でコードネームの基本形を演奏する  2音以上のコードネームを弾きながら歌う 2音以上のコードネームとメロディを両手で弾く コードネーム・メロディを弾きながら歌う 身体表象によることばの表現・リズム表現 ギターの基本とスケール演奏 簡単なメロディの演奏
2学期期末  ( 28 )	ギターの基礎 ギターによるコードネーム ギターによるコードネーム ギターによる歌い弾き ギターによる歌い弾き ピアノによる独奏曲 ピアノによる独奏曲  ピアノによる独奏曲	メロディを弾きながら歌う 基本的なコードネームの演奏 基本的なコードネームの演奏 ハミングで歌いながらギターのコードネームで伴奏 ハミングで歌いながらギターのコードネームで伴奏 進度に合った独奏曲の練習 進度に合った独奏曲の練習  進度に合った独奏曲の練習
3学期  ( 16 )	メロディに即興で伴奏をつける メロディに即興で伴奏をつける	指定された曲のメロディに基づき、即興でピアノ伴奏 指定された曲のメロディに基づき、即興でピアノ伴奏
評価の 観点と 方法	正しい奏法でピアノを弾くことができる。 歌いながらピアノ伴奏を弾くことができる。 幼児教育に求められる音楽に合わせた身体表現ができる。 幼児教育に求められる正しい音程による歌唱・リズム表現ができる。 音楽の構成要素を理解した上で他人と合わせて演奏・表現できる。 以上の観点から総合的に評価を行う	

# 年間授業計画

科目名 (単位数)	美術 I (2)	教科書: 高校美術1 (日本文教出版)
対象学年	1	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	4	副教材3:
科目の目標	描画・造形表現の基礎知識と技能を身につける。 さまざまな作家の生き方や精神、その表現方法を味わい理解を深める。 自己の内面を見つめ、新たな発見に結びつくような主体的な表現活動を展開する。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	オリエンテーション	芸術を学ぶ意義と心構え
	演習 幾何石膏デッサン	物の構造のとらえ方
1学期期末 ( 26 )	演習 幾何石膏デッサン	物の構造のとらえ方
	油彩静物画制作 構図の説明	配置と視点、釣り合いと動勢の関係
2学期中間	画材・道具の扱い方 明暗でとらえる 色調(トーン)の説明 対比をつくる細部の描き込み	油絵具の特徴と扱い方、描く姿勢 明暗による構造把握と画面構成 色調の違いによる印象の変化 明暗・色相・質感などの対比関係
	全体の調整と仕上げ	画面全体のリズム・バランス調整
2学期期末 ( 28 )	絵本の鑑賞と分析	読む人をひきつける構成、表現技法
	絵本制作 手順説明・アイデアスケッチ 試本作り 推敲作業 本文制作開始 レイアウト	主題設定、アイデア展開方法 表現したい内容の明確化 主題が伝わる明快な構成 本制作用紙の扱い方 画面構成の効果
3学期 ( 16 )	画材説明 彩色作業 製本説明 製本作業 表紙作り 全体の調整と仕上げ	様々な画材と表現効果の違い 彩色作業の効率的な進め方 基本的な製本手順 進行状況に合う手順と時間配分の選択  作品全体のリズム・バランス調整
	油彩自画像制作 鑑賞とエスキース 下描き・下地作り 明暗でとらえる・対比を作る 細部の描き込み  全体の調整と仕上げ  水墨画 鑑賞と制作 鑑賞	美術史上の画家の自画像と時代背景 コンセプトの重要性 人物の構造 明暗・色相・質感などの対比関係  画面全体のリズム・バランス調整  油彩と水墨画表現の違い
評価の 観点と 方法	授業や課題に対して、積極的・主体的に取り組んでいるか 課題作品と、その他下描き、自己評価、レポート等の提出状況 課題作品の完成度  以上の観点から総合的に評価を行う	



# 年間授業計画

科目名 (単位数)	美術Ⅲ(1)	教科書: 高校美術3(日本文教出版)
対象学年	3	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	美術Ⅱの内容をさらに深め、知識理解および技能向上を図る。 さまざまな表現に触れ、社会や文化と美術の関わりについてさらに視野を広げる。 各自の表現活動における課題を明確にし、進路実現を目指す。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	描画演習 構内スケッチ 静物デッサン モチーフ組み 構図構成	各自が選んだ対象の美しさ、良さ モチーフ構成が構図にどう関わってくるのか 作品の意図の明確化
	石膏レリーフ制作 石膏板作り 図案下描き	半立体作品の表現方法 焼石膏の扱い方 レリーフ表現に合う図案
1学期期末  ( 13 )	転写 彫り ↓ 額作り 完成提出	彫り作業の注意点 彫刻刀の扱い方  木工作業の基本
	自由制作にむけて 制作準備	課題設定 制作に必要なもの
2学期中間	自由制作 作業計画	手順をふまえ充実した作業計画
	制作開始  ↓ ↓ ↓	各自の課題の明確化  各段階における課題 ↓ ↓
2学期期末  ( 14 )	↓ ↓ ↓ 全体の調整と仕上げ	↓ 展示準備 キャプション作り 作品全体のリズム・バランス調整
	3学期          ( 8 )	
評価の 観点と 方法	授業や課題に対して、積極的・主体的に取り組んでいるか 課題作品と、その他下描き、自己評価、レポート等の提出状況 課題作品の完成度	

以上の観点から総合的に評価を行う

# 年間授業計画

科目名 (単位数)	書道 I (2)	教科書:書道 I (教育図書)
対象学年	1	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	3	副教材3:
科目の目標	1. 楷書の用筆・運筆・結構法の習得及び応用 2. 楷書の自運力の充実 3. 楷書の書風の相違と用筆の関係の理解、並びに表現 4. 行書の用筆・運筆・結構法の習得及び充実 5. 行書による条幅作品の制作、並びに全体構成(並列構成・均衡構成)の理解	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	書道概説  硬筆 楷書の学習	1. 書体の変遷(漢字の五書体と仮名の歴史を知る)  2. 用具・用材の特性(各々の特徴と使用法を知る) 3. 用筆法と運筆法の理解及び習得(側筆と直筆の相違)
1学期期末  ( 26 )	1.基本点画  2. 臨書①(九成宮醜泉銘)  3. 臨書②(蘇孝慈墓誌銘)  4. 自運(二文字課題)  5. 臨書③(選択課題)	4. 楷書の基本点画の習得(縦横画・左右払い) 5. 楷書の基本結構の習得(縦構成の字巾の取り方) <学書上の留意点> a.書という芸術の特性を理解し、その表現における用具・用材の重要性を認識する。 b.くり返し練習することで、基本用筆をしっかりと身につけ、楷書の基本点画を確実に引けるようにする。 6. 楷書の自運力の充実(結構法の共通性による応用) 7. 楷書の結構法の習得①(偏旁の基本的造形法) 8. 楷書の結構法の習得②(結構法の共通性)
2学期中間	鄭羲下碑・雁塔聖教序・顔氏家廟碑 ・隅寺心経・樂毅論等  行書の学習 1. 基本用筆  2. 臨書①(集字聖教序)	<学書上の留意点> c. 多くの文字を習うことで、楷書の基本結構を身につける。 d. 自運することで、応用力をみにつける。 e. 用筆法の相違で書風に変化を与えることを学ぶ。  1. 行書の成立と特徴の理解(楷書の用筆・運筆法との相違)  2. 行書の用筆法の習得(筆の回し込み・返し) 3. 行書の運筆法の習得(腕法・手法)
2学期期末  ( 28 )	4. 臨書③(選択課題)  蘭亭序・風信帖・祭姪文稿・争坐位稿・ 蜀素帖・伊都内親王願文・光定戒牒 ・詩懷紙・白氏詩巻	4. 行書の用筆・運筆法の充実(正確な筆の浮沈・回し込み・ 返し・筆路と筆脈の読み取りによるスムーズな運筆) <学書上の留意点> a.楷書と行書の用筆の相違を理解し、行書の用筆をしっかりと 身につける。 b.筆の多面的な使い方をおぼえる。
3学期  ( 16 )	蘭亭序・風信帖・祭姪文稿・争坐位稿・ 蜀素帖・伊都内親王願文・光定戒牒 ・詩懷紙・白氏詩巻  書 I のまとめ「条幅作品」 創作(草稿) 創作   作品集作成	c.点画連続に関係なく、筆脈がきれないように留意する。 d.筆の流れが形を造ることを認識し、意識して運筆できるようにする。 f.字間を均等にとり、筆の流れを切らずに思い切りよく、全体観を意識 しながら書く。  #REF! イメージを膨らませ、草稿を制作する。 前回作成した草稿を色紙に清書する。  一年間で書きためた作品に表紙をつけ、綴じる。
評価の 観点と 方法	1. 目標を持ち、真剣な態度で作品制作したか。 2. 基本的技術が、習得できたか。 3. 文字の造形法を理解し、表現できたか。 4. 手本となる古典から何かを感じ、創造的に表現できたか。 5. 常に向上心を持てたか。  以上の観点から総合的に評価を行う	



## 年間授業計画

科目名 (単位数)	書道Ⅱ(1)	教科書:教育図書 書Ⅱ
対象学年	2	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	3	副教材3:
科目の目標	てん書、隸書、仮名といった多様な書の世界に触れることで書への興味を深める。 暮らしの中の書、漢字かな交りの書を通して日常生活の中で書に親しみ書を愛好する態度を養う。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	オリエンテーション	文字の変遷を知り自分の名前前の五書体を調べる  布字 印面に転写する(鏡文字)
1学期期末 ( 13 )		補刀 押印 印泥の正しい使い方を知る
2学期中間	仮名の書  単体 連綿	仮名の線(大筆) 漢字の線との違いを理解する  仮名の線(小筆) 小字を書くときの構え方(枕腕法)を知り習得する いろは単体 仮名の線の動きで外形に注意しながらいろは歌を書く 連綿 ひらがなの2字連綿を書けるようにする 変体仮名 表現の幅を広げるものとしての変体仮名の役割を理解し 変体仮名の入った連綿を書いてみる 連綿を練習する 連綿練習(和歌)
2学期期末 ( 14 )	散らし書き  仮名作品制作	連綿練習(和歌) 連綿練習(和歌) 散らし書きについて学び紙面構成を考える  料紙に散らし書きで和歌一首を書く
3学期 ( 8 )	漢字仮名交じりの書  漢字仮名交じりの書作品制作 書と印  自由作品創作	紙面構成について考える 用具用材について考える(筆、墨) 用具用材について考える(墨、紙)  漢字と仮名の調和について考える 自分で選んできた言葉を書く 補刀 押印 印泥の正しい使い方を知る  学習済みの楷・行・篆・隸・仮名・漢字仮名交じりの書から各自選択して創作 総復習、集大成としての書作
評価の 観点と 方法	てん書、隸書の特徴を理解しそれぞれ正しい用筆法で書くことができたか 姓名印を完成させ、作品に押印することができたか かなの成り立ちを理解し、連綿の呼吸をとらえて作品づくりをすることができたか 正しい書式を知り、暮らしの中で書に親しむ態度が養われたか 漢字と仮名を調和させ創作作品を作ることを楽しめたか  以上の観点から総合的に評価を行う	